

# 座・ガモールファーム 通信

Vol. 35 | 2025.11.01



去年の種子地蔵縁日の様子

## 種子地蔵縁日は11月8日開催です。

### 夜寒の候

急に寒い日が増えてきましたが、皆様お身体にはお気をつけください。さて、11月8日には第5回種子地蔵縁日が開催されます。このイベントは大正大学沿いにある旧中山道の種子屋通りとしての歴史や江戸東京野菜といった伝統野菜の継承、発展を目指した取り組みです。としまグリーンインフラ研究会のブースでは専門のお店から仕入れた江戸東京野菜の販売や埼玉校舎で栽培したポップコー

ンの販売などを行う予定です。キャンパス農園班では栽培したひょうたんの絵付けワークショップや農園ツアーを開催します。ほかのすかもプロジェクトチームも足湯や謎解きなど様々な出店を行う予定です。来場者には貴重な江戸東京野菜の種も配布されます。

また、毎年縁日は南門広場で開催されていましたが、今年は広場の工事の関係で5号館、7号館、8号館前などのスペースを使用しての開催になります。皆様ぜひお越しください！

(山本)



縁日に向け準備を進めています

※本ニュースレターは、JST「流域治水を核とした復興を起点とする持続社会」地域共創拠点活動の一環として発行しています。座・ガモールファーム通信のバックナンバーを含むプロジェクトの概要は右のQRコードからご覧ください。



# 今月の活動

## キャンパス農園班

秋の深まりとともに、山の風景も少しずつ色づき始め、朝晩の冷え込みに季節の移ろいを感じるようになりました。皆さま、いかがお過ごしでしょうか。地域創生学科2年の野沢奏です。

今月は、私たちの活動を広く発信するための大きな挑戦、「サステナアワード2025」への応募準備に取り組んでいました。このコンテストは、農林水産業や食に関する持続可能な取り組みを映像で紹介するもので、企業や学校、地域団体など、さまざまな立場の人々が参加できる全国規模の企画です。応募作品は3分30秒以内の動画で構成され、活動内容をわかりやすく伝えることが求められます。テーマは「とめよう温暖化」「まもろういきもの」「まもろう水」「へらそうごみ」「みんなで支え合おう」「まもろう土」の6つが設定されており、少なくとも1つに関連する内容であることが条件です。

私たちが日々取り組んでいる農園活動や地域との連携は、これらのテーマと深く関わっており、特に「まもろういきもの」や「みんなで支え合おう」の面で強くアピールできていると感じています。動画制作にあたっては、活動の背景や目的を丁寧に伝えるためにプロットを練り直したり、撮影場所や構成を何度も検討したりと、普段の実践とはまた違った視点で自分たちの取り組みを見つめ直す機会となりました。映像を通して、私たちの思いや地域の魅力が少しでも多くの方に届くよう、心を込めて準備を進めています。

そして、秋といえばやっぱり“食欲の秋”ですね。大学の農園では、サツマイモの収穫が行われ、土の香りとともに秋の恵みを感じるひとときとなりました。収穫されたサツマイモは学内で配布される予定です。

さて、11月8日(土)は待ちに待った種子地蔵緑日の開催です。今年度は南門広場の工事があり例年と少し開催場所が変わり中庭などを活用して開催されます。詳細は大学ホームページをご確認ください。皆様にお会いできることを楽しみに準備を進めてまいります。皆さまくれぐれもお体ご自愛ください。



さつまいもの試し掘りをしている様子

## 座・ガモールファーム



埼玉校舎で収穫した冬瓜

11月になり、肌寒い日が増えてきました。埼玉校舎では秋の隠れた味覚である冬瓜が収穫できました。聞き馴染みのない方もいるかもしれませんが、冬瓜はウリ科の野菜でスープなどに入れると柔らかい食感が楽しめるほか、クセも少ないのでとても食べやすくおすすめです。また、カボチャもそろそろ収穫ができそうです。

テラスではさつまいもの収穫時期を迎えました。今年のイモリンピックに向けて学生たちもどれだけ大きなさつまいもが収穫できるか期待が高まっています。さらに、テラスの外では長芋や里芋も育っています。昔植えた里芋が数年ぶりに大きく育っていたという驚きもありました。

5号館の裏では生姜も収穫どきです。こちらは半日陰の場所なのですが、生姜であれば問題なく育ちます。また、ここでは土嚢袋を使って栽培を行っています。元々は大学で育てた花用の要らなくなった土が置かれていたのですが、それを土嚢袋に入れて再利用した始めたのきっかけです。土嚢袋は災害時にはそのまま使用できるという利点もあり、場所もあまりとらないため、グリーンインフラとしての都市農業としては良いモデルケースだと言えます。

(山本)

## 詳細はこちら

座・ガモールファームの詳細はこちらから見るができます。Instagram、note、YouTubeに画像や動画がたくさんあり、Twitterではイベント告知をするのでぜひご覧ください。

